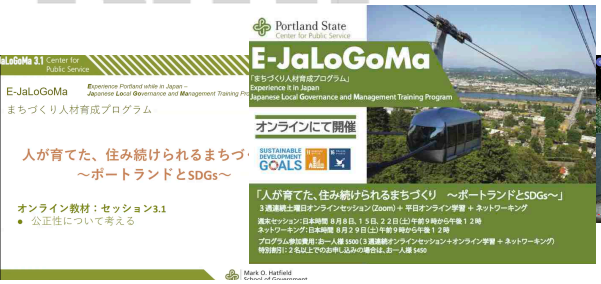
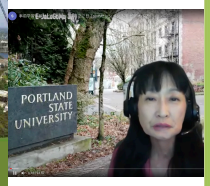
Kyoto Institute for Regional Prospects

KIRP

NEWS LETTER No.18

Portland State Center for Public Service





開催報告

ポートランド州立大学パブリックサービス研究・実践センター主催

まちづくり人材育成プログラム2020
「人が育てた、住み続けられるまちづくり～ポートランドとSDGs～」

本センターの国際協定締結先であるアメリカのポートランド州立大学公共サービス研究・実践センター（CPS: Center for Public Service）が毎年、日本からの研修生を現地で受け入れて行なっている「まちづくり人材育成プログラム（通称、JaLoGoMa: Japanese Local Governance and Management Training Program）」が、今年度はCOVID-19の影響でオンライン（E-JaLoGoMaとして）開催されました。本センターからは、川勝健志（センター長、公共政策学部教授）と鈴木暁子コーディネーターがCPSのスタッフとして、藤原茂樹企画調整マネージャー（公共政策学部准教授）が参加者の一員として参加しました。

JaLoGoMaは例年、現地で１週間の連続したプログラムが実施されますが、今年度は8月8日から29日までの期間、毎週土曜日に9:00~12:00までオンライン（Zoom）で実施されました。参加者が事前に配信されるオンデマンド学習教材で「全米一住みたいまち」として知られるポートランドのまちづくりの背景知識や現地実践者へのインタビュー映像等で得た学びに基づいて、週末のオンライン・プログラムでグループディスカッションを行うというものです。

全国から行政職員、議員、民間事業者、地域活動の実践者、大学教員、学生・院生など、64名の参加者に加え、25名のボランティアスタッフがオンラインで集まり、毎週時間が足りなくなるほど活発な議論が交わされました。

当初はまさか海外研修プログラムであるJaLoGoMaがオンラインで開催できるとは思いもしませんでしたが、CPSのコアスタッフによる手厚いサポートによって、大変有意義なプログラムとなりました。これからオンライン手法を活用したセミナーや各種プログラム等を検討している本センターとしても学ぶことの多い貴重な機会となりました。【文責：川勝 健志（センター長、公共政策学部教授）】

2020 夏 E-JaLoGoMa の様子

冬プログラム参加者募集のご案内 (2021/1/23・2/6・2/20)

夏のE-JaLoGoMaに引き続き、冬も同様のプログラムを開催します。SDGsを切り口に、住民主体のまちづくりを行っていくための概念的な枠組み、効果的な市民参加の在り様、またそれに必要なイノベーティブ(革新的)　な方法等について、オンライン学習や現地のキーパーソンを交えたオンライン・ディスカッションなどを通じて学んでいただける内容となっています。ポートランドの「今」を体感し、この機会に自分のまちづくりの方向性を考えてみませんか。

詳細はこちらから▶https://sites.google.com/view/jalogoma-psu

※京都地域未来創造センターではCPS主催のまちづくり人材育成プログラムの広報に協力しております。

KIRPについて

京都地域未来創造センター（KIRP）は、京都府立大学の「知」を活かし、地域の未来を創るための拠点として発足した地域に向けた総合窓口です。共同研究、受託研究等に関するご質問、ご相談があればお気軽にお問い合わせください。

Tel ：075-703-5390
Fax：075-703-4979
mail：kirpinfo@kpu.ac.jp
HP ：http://www.kpu.ac.jp/

〒606-8522
京都市左京区下鴨半木町1-5
稲盛記念会館 1階

京都府立大学
京都地域未来創造センター
KYOTO INSTITUTE FOR REGIONAL PROSPECTS

NEWS

地域貢献型特別研究（府大ACTR）の近況報告

2019ACTR成果報告会　2020/10/15 @精華町

2019ACTR報告会in精華町

2018～2019年度KIRP　橋爪さやか元研究員　報告(現：精華町職員)

新型コロナウイルス感染症の影響により延期になっておりました、精華町での地域貢献型特別研究（ACTR）の成果報告会が、１０月１５日（木）に精華町役場にて開催されました。

京都地域未来創造センターの研究員として昨年度まで中心となって調査をされた精華町企画調整課の橋爪さやか主査や研究協力者である精華町の岩橋総務部長、また、本研究の代表者である公共政策学部の川勝健志教授から『関西学術研究都市建設と精華町～学研都市精華町の過去・現在・未来～』と題した各々の視点からの報告をしていただきました。

限られた出席者のみでの開催でしたが、関西学術研究都市としての精華町の取り組みを総括し、これからの展望と課題を深く考える報告会となりました。

報告会の様子▲▶

地域貢献型特別研究NOW

＊ACTRとは？
ACTRは、Academic Contribution To Regionの略で、「地域に貢献する学術研究」を意味します。京都府内の市町村、府内に立地する企業、NPO等から寄せられた地域課題の提案に基づき、本学教員とマッチングが成立した研究に対して、学内外の審査員による審査会を経て決定しています。

KIRPニュースレターにて本年度のACTRの調査研究の近況をお伝えしていきます！

「京都府希少農産物（城州白梅と京野菜）を絶滅危惧から脱却させるための食品機能性実証と栽培マニュアル作成」

生命環境学部農学生命科学科　森本 拓也 講師

京都府城陽市でのみ栽培されているウメ「城州白」は，果実が大きく芳醇な香りが特徴の希少品種です。本研究課題では、「城州白」のブランド化や生産拡大に向けて、香気成分の分析や食品機能性の評価、効率的な栽培技術の開発を進めています。今後は「城州白」の特徴を生かした商品開発にも取り組んでいきたいです。

「丹後半島における文化遺産の地域資源化に関する総合的研究」

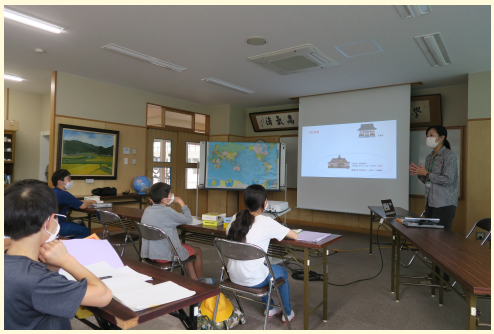
文学部歴史学科　諫早 直人 准教授

1981年、京丹後市湯舟坂2号墳から双龍環頭大刀をはじめとする大量の副葬品が出土し、大きく報道されました。出土品は国の重要文化財に指定され、京都府立丹後郷土資料館に大切に保管されています。現在、上記ACTRの一環で、京丹後市、京都府立丹後郷土資料館とともに、発掘以来40年ぶりとなる古墳や出土品の再調査をおこなっています。今後は調査で得られたデータをもとに、地域に眠る貴重な文化遺産を「地域資源」として活用するための方策を地域の皆さんと一緒に模索していく予定です。

「海と森の京都の融合による文化観光拠点の形成」

文学部歴史学科　横内 裕人 教授

- 7/15　綾部市立上林小学校出前授業　上林寺・永勝寺・上林城など現地調査
- 8/20-21　舞鶴市木船家文書調査
- 9/21-24　綾部市君尾山光明寺・坂尾呂神社・室宇神社調査
- 9/26-27　舞鶴市木船家文書調査



歴史学科では「森の京都」綾部と「海の京都」舞鶴でそれぞれACTRを続けてきました。今年度の新ACTRは、地域の文化遺産に新しい光を当てるため、両地域の交流の歴史を地元の方々と一緒に探っています。綾部では上林小学校とのコラボ授業で、児童が現地調査で大活躍です。舞鶴では地元の大庄屋文書を舞鶴地方史研究会のみなさんと大学生が共同して調査しています。